

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和6年度 第3回佐渡市デジタル活用推進検討懇談会
開催日時	令和7年3月19日(水) 16:00~17:30
場所	佐渡市役所第2庁舎 会議室2-202
会議内容	1 開会 2 座長あいさつ 3 議事 1) 「デジタル活用計画」の進捗報告について 2) 令和7年度事業案について 3) 令和7年度の懇談会について 4) その他 4 副座長 5 閉会
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	«デジタル活用推進検討懇談委員» (6名) «市役所» (4名) ・佐渡市総務部総務課デジタル政策主幹 中川 裕 総務課デジタル政策室長 椎 俊介 総務課デジタル政策室デジタル推進係調査員 桃原 里沙 総務課デジタル政策室デジタル推進係主事 齋藤 凌
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	なし

会議の概要（発言の要旨）

発言者	議題・発言・結果等
座長	<p>1 開会</p> <p>2 座長あいさつ</p> <p>皆さま、本日もよろしくお願い申し上げます。</p> <p>皆さま、AIはどのくらい使用されているか。</p> <p>最近、そういう技術が日々私たちが使用できる環境にあって、私の仕事の仕方も全然変わり、もはや英語の文書を一生懸命考えて書くなど意味がなくなり、何でもAIに放り込めばすぐ綺麗な英語に直してくれる時代になっている。</p> <p>ただ、デジタル格差というか、すぐそういう技術をうまく使いこなしている人と、少しだけ活用している人と、まったく使っていない人と色々いるかと思うし、市役所の中でもそういう格差がすごくあって、先日、私どもの学生が佐渡市役所の職員の方を対象にデジタルリテラシーのアンケート調査をさせていただいて、290名の方に回答いただいて、デジタル化に対する抵抗感や、どのような格差を感じているのか、どのような課題感を持っているのかについて調査するという研究を実施させていただいたが、格差はあるものの職員の皆さまはポジティブに捉えて、色々な学びを得ながらデジタルを取り入れていきたいという意見を持たれている方が多いことが分かった。</p> <p>当懇談会においても、構想を作り、次いで計画を策定したが、これから計画に書かれていることを、或いはこれから新しい要素もどんどん組み込みながら実装させていくというフェーズになってくと思うが、そういう段階で見えてくる課題も色々あるものと思うので、皆さまより様々な視点でざっくばらんにお話いただけたらと思う。</p> <p>ちなみに、私は本日窓口で住民票や戸籍など書類を色々提出したが、申請書を3枚書かなくてはならなかった。</p> <p>『『書かない窓口』』というのはまだこれからなのか』という思いで過ごしていた。</p>
椎室長	<p>後ほど確認をさせていただく。</p>
座長	<p>そのような感じで、計画が本当に進んでいるのかというチェックも含めてできればと思うので、是非、市民としての声を願います。</p>
椎室長	<p>それではそのまま議事の方に入りたいと思うので、進行を座長より願います。</p>
	<p>3 議事</p>
	<p>1) 「デジタル活用計画」の進捗報告について</p>
座長	<p>それでは最初の議事について事務局より報告を求める。</p>
椎室長	<p>(アジェンダP.5～9に沿って説明)</p>
椎室長	<p>「デジタル活用計画」について、12月によやく策定に漕ぎつけた。</p>
	<p>策定にあたり、少し時間が経ってしまっているが、パブリックコメントで頂戴した意見について皆さまに共有するので、後ほどご覧いただきたいと思う。</p>
	<p>お一方については、「計画の中身がまったく理解できない」とのご意見であるが、この点について私た</p>

ちは深く反省をしなければならないと思っている。

ご意見の内容についても、やはり色々な用語の意味を履き違えており、計画の中身が伝わっていないという印象であった。

佐渡市は高齢者が多く、スマホを持っていない方が一定数いらっしゃるのも事実なので、こういう方たちに少しずつでも届くように取組を進めて行かなければならないと考えている。

本日については、「デジタル活用計画」の取組項目について、第3四半期までの取組状況を共有させていただきたいと思う。

本来、今年度はこの進捗管理について、懇談会と担当課の議論の時間も設けながら進めてみたいという意向であったが、どのような建付けがよいのかについてまとめることができず実現できなかった。

来年度早々、4月21日～25日くらいの日程で各課へのヒアリングを実施し、令和6年度の実績及び、新年度の取組の方向性やKPIの見直しなどを実施したいと考えており、この日程のどこかに懇談会を設け、ヒアリングに臨席いただくような形を作りたいと考えている。

よって、本日はその前段というか、デジタル政策室も庁内すべての取組を把握できている訳ではないが、担当課からの報告内容とKPIが一致していない点などが垣間見えると思うので、お気づきの点があればコメントいただきたいし、皆さまもメモを取るなどしてヒアリングの際のヒントにさせていただけたらと思う。

ちなみに、本日、皆さまへの報告については、今年度取り組んだ「ノーコード・ローコードツール活用実践プログラム事業」によって作成したアプリを用いてさせていただく。

椎室長

(基本目標1について説明)

座長

それでは、基本目標1の取組についてご質問等あるか。
なければ私からお聞きしたい。
「災害関連情報集約・提供サービスの整備」について、県が管轄している河川や道路についても情報としては上がってくるのか。

中川主幹

土砂災害などの情報が発令されれば上がってくる。
道路の通行止め情報などは、細かい情報になってしまうのでリンク先を参照いただく形になる。

座長

サイトの中を結構探す形になるのかと思う。
慣れている人はすぐに探せると思うが。

中川主幹

避難指示という形で発出されたものを市としては発表しなければならない義務があるので、そういうものに特化している。

座長

承知した。
「交通デジタルサービスの要件検討、導入」について、鹿児島市が市バスにクレジットカードの「タッチ決済」を導入している。
海外の人など、「PayPay」や「Suica」より「タッチ決済」の方がやりやすいと思った。

中川主幹
A委員

ヨーロッパ方面などはどこも「タッチ決済」である。
電車で実証実験など実施しているようである。
東京の地下鉄の私鉄はだいたい導入されている。
ただ、例えば東急線内なら東急線内だけ、小田急線内なら小田急線内だけといったように各路線を跨ぐものではない。
「Suica」の手数料が高額なため、「Suica」をやめて「タッチ決済」にしたところ海外の人たちもそれが

	<p>使えるようになったようである。</p> <p>ただ、海外の人もスマホで自動改札を通る方が多いので、「モバイルSuica」をダウンロードしているのかもしれない。</p> <p>「市民からの道路・橋梁等の破損通報にもとづく早期修復」について、これは市道に限らず、県道であろうと国道であろうと通報すればよいのか？</p> <p>受付後の事務フローについては把握していないが、県道や国道であればそれぞれの管轄に情報共有しているはずである。</p> <p>「EMS（エネルギーマネジメントシステム）の検討・整備」については担当課からお話を聞いており、KPIに関しては、市営施設の屋上にソーラーパネルを設置するという目標が第1期～第3期まであって、その目標どおりに進捗していることを言っているのだと思う。</p> <p>ソフトウェア開発については、第1期～第3期のさらに親を作るようなお話を聞いているので、そのあたり、物価高騰や人手不足などが大変らしいが頑張っていると聞いている。</p> <p>「V2H設備導入」については3か年で3台ずつ計9台を導入するという計画なので、恐らく計画どおりの進捗だと思うが、R6年度で7箇所というのは前倒しで進んでいるのかなと思う。</p> <p>また、「交通空白地域における自家用有償旅客運送の導入」について、タクシー不足による一般ドライバー10名による運行とのことであるが、KPIは「1地区」というよりは、「約200件の依頼に対し半数程度しか配車できていない」とのことであれば、需要に対する対応率に見直すという考え方があってよいのではないかと思う。</p> <p>KPIについては実態と噛み合っていないと感じるので、そのあたりは現課にも確認してみたいと思う。</p> <p>他にご意見等あるか。</p> <p>ないようであれば、次へ進む。</p> <p>（基本目標2、3、4について説明）</p> <p>それでは基本目標2の取組について何かご質問等あるか。</p> <p>「1人1台端末を活用した授業支援ソフト・AI学習ドリルの導入」について、端末は家庭に常時置くようにし、学校では先生がいるのにわざわざ端末を開く必要はなく、今までどおりの授業を行えばよいのではないかと思う。</p> <p>先生も大変なので、先生を楽にさせるための1人1台端末という考え方もあるのかもしれないが、本質的な目的はそこではないと思う。</p> <p>佐渡の子どもたちの教育環境や塾の環境が首都圏の子どもたちに劣らないようになることが将来的な目的であるはずなので、そういうコンテンツは何だろうということを先生と一緒に考えればよいのではないかと思う。</p> <p>タクシーの運転手のように先生たちがどんどんいなくなったら困るが、その時は、先生の代わりをする人ではなくて授業をする人が欲しいのであって、そうであれば1人1台端末は家庭に置いておけばよいのではないかと思う。</p> <p>家庭でYoutubeとかを観て困るというのであれば、友達とテレビ会議をしてワイワイやったり、色々話をしたりすればよいのではないかと、そういう逆の発想ができないかと思う。</p> <p>ルールの決め方が日本らしいという気はする。</p> <p>「GIGAスクール構想」として、1人1台端末を整備したが、これは文部科学省が実施しており先生側の視点である。</p>
B委員	
椎室長	
C委員	
椎室長 座長	
椎室長	
座長 A委員	
椎室長 A委員	

B委員	<p>子ども視点でなければ駄目である。</p> <p>興味を持たなければ使わない。</p> <p>今は、学校の先生が「これをやりなさい」ということで、「やらされ感」があるのだと思う。</p> <p>やはり、興味を持たせることが重要なポイントなのだと思う。</p> <p>これは国の予算でやっていることなのか。</p> <p>「放課後子ども教室」で畑野地区のキッズイングリッシュに行くと、お迎えに来たおばあちゃんが「こんな3年生になってからでいいのに」と言っている。</p>
A委員	<p>「先生にお伝えする」とは回答するが、先生に言っても仕方がないことである。</p> <p>せっかく整備してもらったものなので、それはラッキーと思って使えばよいが、使い方はこちら側の話であるので、「佐渡ではこのように使おう」というふうには活用できたらよいと思う。</p>
椎室長	<p>使う側が使い方を考えることは大事と思う。</p>
A委員	<p>恐らく、教育委員会にそのような要望をしても、教育委員会も困ってしまうのではないと思うが。</p> <p>教育委員会が先生を集めて、コミュニティの中で考えて知恵を出していくということが、本来の子どもに対しての役目である。</p>
座長	<p>そういうことをしっかりやりながら教育のデジタル化を進めている地域はあるのか。</p>
A委員	<p>ないことはないと思うがあまりクローズアップされていないようである。</p>
座長	<p>佐渡では是非実施してほしいところである。</p>
椎室長	<p>子どもの数が激減しているが、少ないからこそ今のようなご提言に取り組みやすいという考え方もできるのかもしれない。</p>
A委員	<p>ヨーロッパでは子どもたちの学力の向上に効果がないということだけでなく、心身に影響を与えるという理由で教育のデジタル化をやめ始めているようである。</p> <p>全般に渡って言えることであるが、KPIを追うだけでなく、今年度このことに取り組んだことの反省は何か？課題は何か？ということをしっかり出さないと、子どもたちがこの取組によって頭が痛くなるだとか、相当目が悪くなるだとか、何かしら反省というか評価をしないと次のステップに行けない。</p> <p>このままだとKPIだけを追うような作業になると思うので危惧するところである。</p>
座長	<p>それは結構危険なことなのではないか。</p>
A委員	<p>北欧の方は心の病が多く自殺者も多いためそのような観点にならざるを得ないのだと思う。</p>
座長	<p>学力だけの問題ではないということである。</p> <p>他にご意見等あるか。</p> <p>ないようであれば、次に進む。</p>
椎室長	<p>(基本目標5について説明)</p>
座長	<p>「窓口システム「書かない窓口」の導入・拡大」について、本日、窓口にて住民票、戸籍謄本の請求を行った。また、印鑑登録についても申請書を渡され「これに書いてきてください」と言われた。</p> <p>デジタルでの手続きができるような雰囲気すらなかった。</p>
椎室長	<p>職員によってシステムの習熟度に差があるためそのような対応になったのかもしれない。</p> <p>定例会において、市民からこのような意見があったということで伝えたいと思う。</p> <p>皆さまも窓口へ手続にいらした際には、「書かない窓口」をご利用いただきたい。</p>
A委員	<p>難しくもあると思う。</p> <p>高齢者に「スマホを使い」と言っているようなものでもある。</p>

椎室長	<p>事前にインターネット経由で申請できる「事前申請サービス」の利用を推進しており、引越し手続で来庁された方にはコンシェルジュが声がけし、「事前申請サービス」の利用の有無を確認するようにしている。</p> <p>先週あたりは、10人程度の来庁者を「事前申請サービス」に誘導したと聞いている。</p>
A委員	座長が来庁した時は窓口は混雑していたのか。
座長	私だけである。
桃原調査員	端末台数に限りがあるため、一部の窓口には設置されていないところがある。
C委員	<p>気になったのは、「書かない窓口」対応の如何は端末台数なのか、それとも座った場所なのか、はたまた対応する職員の気分次第なのか。</p> <p>住民によってサービスのグレードが異なるのは問題ではないか。</p>
椎室長	<p>今は手続によって分けている。</p> <p>すべての手続ではないが、異動に関する手続や、手続数の多いものに絞っており、印鑑登録に関する手続などはその最たる例であると認識しているところである。</p> <p>今回のお話で、職員によって差があるようだということが分かった。</p>
D委員	<p>「書かない窓口」に対応しているのは本庁だけなのか。</p> <p>支所は対応していないのか。</p>
椎室長	今は本庁だけである。
B委員	<p>そうは言っても、書くことそのものをなくすことはしてほしくない。</p> <p>それしか選択肢がない人もいるはずである。</p>
A委員	そこはコンシェルジュの方が対応するのか。
B委員	ヘルプは必要である。
桃原調査員	<p>「書かない窓口」は、来庁した方にスマホで操作してもらおうのではなく、職員がお客様に代わって聞き取りで申請書を作成するものなので、お客様は最後に署名をするのみである。</p> <p>操作が難しく感じる方にでも対応できる仕組みである。</p>
B委員	承知した。
A委員	「公共施設管理システム導入、データに基づく適正化検討、マネジメント実行」について、施設の管理についてはそれぞれの所管課に委ねられているのか。
座長	財産管理課が施設情報を集約しているのではないか。
椎室長	<p>公共施設等総合管理計画あるいは総合管理計画に基づく個別施設計画について各自治体で整備しているが、その所管が財産管理課になる。</p> <p>よって、一元的に施設のデータとしては持っているが、コストや施設の利用データのようなものは各課が持っている。</p> <p>そういったデータも吸い上げて一元的に管理できないかということで、こうしたノーコード・ローコードツールを活用している。</p>
A委員	<p>「デジタル人材育成・確保計画」の策定、「デジタル人材研修プログラム」の拡充・受講推進」について、新潟県も同様であるが、DX推進リーダーについては母数をどんどん増やしていくことになると思うが、例えば、今年度は10課に10人いたリーダーが人事異動によって動くと、リーダーが不在の課が生まれることになる。</p> <p>人事制度的に、リーダーはリーダー同士でうまく異動ができるようになるとういのがなかなか難しいようである。</p>
中川主幹	新潟県の方でもデジタル人材の計画を出しているが、そちらを参考にさせていただき、あまり齟齬が

	<p>ない内容として策定を進めてきた。</p> <p>しかし、計画としては立てたが仕組みとして回るのかということになるとズレがあると思うので、そこは仕組みとして作っていかなければならないと思う。</p>
A委員	<p>例えば、3～5年のうちに課員や班員の半数がリーダーになれば、人事異動があっても各課に広く行き渡るかもしれないが、職員数も多いので難しい課題である。</p> <p>そもそも引っ張っていく人がリーダーなので、あまり年齢制限をかけず、課長補佐クラスでもリーダーになれるようにしなければならない。人事異動によってリーダーが不在となる課が発生し、ノーコード・ローコードツールを使えなくなってしまうようなことが起きないように注意しなければならない。</p>
中川主幹	<p>研修を受けた職員や、デジタルリーダーを担った職員をデータベース化しているので、それを人事担当とも共有しながら職員配置を考えるような仕組みを作っていけたらと思う。</p> <p>よいと思う。</p>
A委員 座長	<p>他にご意見等あるか。</p> <p>なければ次の議事に進む。</p>
	<p>3 議事</p> <p>2) 令和7年度事業案について</p>
座長	<p>事務局より説明を求める。</p> <p>(アジェンダP.10～16に沿って説明)</p>
椎室長	<p>ただ今の説明についてご意見等あるか。</p> <p>本日の説明全体についてであるが、ものすごく進んでいるという印象である。</p>
座長 B委員	<p>特に、命を守る災害時にオンラインで物事が進んでいくと、万が一停電した時にはこの庁舎は非常電源の確保はできるようになっているのか。</p> <p>そのとおりである。</p>
椎室長	<p>太陽光発電と蓄電池により、災害時にも自然エネルギーを活用できるようになっている。</p> <p>冒頭で「災害関連情報集約・提供サービスの整備」について説明したが、防災情報の発信については、庁舎内に仕組みがある訳ではないので、インターネットから情報が配信される仕組みとなっており、そちらがかなり堅牢に作られているので、仮に佐渡市の電算室がNGになっても大丈夫である。</p>
中川主幹	<p>海底ケーブルが切れても衛星から繋がるようになっているということか。</p> <p>個人の端末まではネットワークを繋げる必要がある。</p>
A委員 中川主幹	<p>100%ではないと思うので、最後の最後は人やアナログで何を残しておかなくてはならないかということが能登半島地震で得た教訓である。</p> <p>模造紙とペンは必ず用意しておかなければならない。</p>
A委員 座長	<p>それでは、最後の議事となる。</p> <p>事務局より説明を求める。</p>
	<p>3 議事</p> <p>3) 令和7年度の懇談会について</p>

<p>桃原調査員</p>	<p>ただきながら作り上げることができたと思っている。</p> <p>私自身も市民の方々や有識者の方々と一緒に接点を持ちながら作り上げるということは初めての経験だったので、すごく勉強になったし、色々な考え方や民間では味わえなかったような経験をできたと思っている。</p> <p>感謝を申し上げる。</p> <p>それから、「デジタル活用計画」というものができたので、市役所が市民も含めて一丸となって進めて行くことになると思うので、皆さま、市民の方々、事業所の方々と連携して進めて行くことになると思うので、その際にはお力添えをいただければと思う。</p> <p>私はこの役職に就いてから初めて佐渡へ来たが、皆さんにとっても暖かく迎えていただいて3年間活動させていただくことができた。</p> <p>本当にお世話になり感謝申し上げる。</p> <p>なかなか、まだまだ思ったよりも進んでいないと思われる部分であったり、逆に進みすぎて怖くなってしまふようなことがあったり、色々なご意見はたくさんあるかと思うが、着実にこの3年間で変化している部分があるのは私自身も感じているところで、一旦計画ができた段階で、このあとは市役所だけでなく民間の皆さまと一緒に進めていかなければならないところもたくさんあると思うので、引き続き皆さんのお力添えに関わりながら、佐渡市が持続可能な市として継続できるようにお力添えいただけたらと思う。</p> <p>今後も何かしらで佐渡市に関わって行ければと思う。</p> <p>引き続きよろしくお願ひ申し上げる。</p>
<p>座長</p>	<p>それではこれで終了となる。</p> <p>本日、複副座長が欠席のため、せっかくであるのでB委員より閉会のご挨拶をお願いする。</p>
<p>B委員</p>	<p>4 副座長あいさつ</p> <p>右も左も分からぬままにこういう場に来てしまい、まずは用語の勉強からしなければならぬくらい何も分からない状態であるが、市民のレベルというのはこのようなものである。</p> <p>そこをエキスパートの皆さんは常に置き去りにせず一緒に歩いてほしいというのが心底の願ひである。</p> <p>ただ、デジタル活用によって、確実に費用削減であるとか、暮らしが便利になるとか、時間を新たに生み出すことができるであるとか、デメリットもあるかもしれないが、それ以上にメリットがたくさんあるということを感じているので、私の周りにいる大多数のアナログの皆さんにも、こうした取組について機会があれば広めていけるような一市民になりたいと考えている。</p> <p>至らない点ばかりであるが、仲間に入れていただいて感謝を申し上げる。</p> <p>5 閉会</p>